

外国人対応「今こそ」

TSUKIWA(福井) インバウンド事業部設置

コロナ収束後にらみ

6言語通訳アプリ販売

フィットネスクラブのフランチャイズ店経営のTSUKIWA(本社福井市開発2丁目、黒川照元社長)は、訪日外国人客に対応したインバウンド事業部を7月に立ち上げた。新型コロナウイルス感染症拡大でインバウンドは厳しい状況だが、「逆に今こそが好機」と新規参入、第一歩としてテレビ電話型通訳アプリ事業の販売代理店となり、みそ製造販売の米五(福井市春山2丁目)が直販店として9月1日にアプリを導入する。(青木伸方)

TSUKIWAは、女性専用フィットネスクラブ「カーパスを県内で5店舗経営。コロナ禍で本業がダメージを受ける中、あえて逆風のインバウンド事業に乗り出すことを決めたのは黒川照太郎取締役・事業部長(39)だ。

黒川氏は、学生の約半数を留学生在が占める大分県別府市(39)だ。

黒川氏は、学生の約半数を留学生在が占める大分県別府市(39)だ。

黒川氏は、学生の約半数を留学生在が占める大分県別府市(39)だ。



インバウンド事業部を立ち上げたTSUKIWAの黒川取締役(左)と、同社が代理店販売するテレビ電話型通訳アプリを導入する米五の多田常務(福井市春山2丁目の「みそ業」)

「コロナが収束すれば、訪日外国人客は一気に戻ってくる。福井は北陸新幹線開業などを控えているので、逆に今が参入のチャンス」と黒川氏。インバウンドの専門部署をつくるのは県内企業では珍しく、「オンラインワンになれる」と思い立ったという。

テレビ電話型通訳アプリ「スマイルコール」などを展開するベンチャー企業「インデンコンサルティング」(本社京都市)と7月に代理店契約を締結。通訳アプリはビデオチャット機能を利用した24時間365日対応のサービスで、6言

語を通訳する。

県内初導入となる米五は直販店「みそ業」福井市春山2丁目)の店頭やみそ作り体験教室、工場見学などに訪れる外国人客に対し、店員がスマートフォンで通訳アプリを使って対応する。多田健太郎常務(36)は「コロナ収束後に旅行会社などにインバウンドの営業を掛けるのではなく、収束時には外国人客を受け入れる態勢にしておきたかった」と導入の理由を話した。

黒川氏は、インバウンド対応の土台となる通訳アプリの普及を足掛かりに、各企業や店舗の需要を探り、新たなサービスを展開していく考え。「ゆくゆくは福井駅周辺で外国人客向け飲食店や宿泊事業をやっても面白い」と目を輝かせた。

PLANT(坂井)

マイナポイント参画

きょうから電子マネーで

PLANT(本社坂井市、三ツ田健史社長)は31日、同社のプリペイド(前払)型電子マネー「PLANT Pay(ペイ)」で総務省のマイナポイント事業に参画すると発表した。マイナポイント申し込みの際に、決済サービスとしてPLANTペイを選択すると、2万円分のチャージ(入

金)で5千円相当のポイントを付与する。

PLANTペイはスマートフォンアプリとカードがある。県内を含む全国24店舗で利用でき、8月末時点の発行枚数は約1万8千枚。マイナポイント事業は1日スタート。マイナンバーカード所有者が電子マネーのチャージや、スマホのQ